



# news release

北海道コカ・コーラボトリング株式会社 〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号  
[URL] <http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>

2021年4月16日

報道関係各位

延べ138団体を支援

北海道の水辺の環境保全を「い・ろ・は・す天然水 555mlPET」が応援

「北海道 e-水（イーミズ）プロジェクト」

## 2021 年度支援団体決定 & キックオフミーティング開催

北海道コカ・コーラボトリング株式会社（本社：札幌市清田区 代表取締役社長：佐々木康行）は、2021 年 4 月 20 日（火）、本年度の支援団体として採択された 8 団体が活動内容について発表し情報共有するための「2021 年度北海道 e-水プロジェクト キックオフミーティング」を下記の通りオンライン開催いたしますので、ご案内申し上げます。

「北海道 e-水プロジェクト」は、2009 年 11 月、北海道と当社との間で締結した「環境保全に関するパートナーシップ協定」に基づき、北海道の豊かで美しい「水」を中心とした自然環境を守り次世代へと引き継いでいくことを目的とし、北海道、公益財団法人北海道環境財団、当社の三者協働で取り組むプロジェクトです。



北海道 e-水プロジェクト



当社が販売する北海道の天然水「い・ろ・は・す天然水 555mlPET」の売上の一部を（公財）北海道環境財団に寄付し、道内各地域で水辺の環境保全活動に取り組む団体および流域ネットワークの活動を支援するもので、2021 年度で 12 年目を迎え、これまでの支援団体数は本年度含むと延べ 138 団体となります。

今年は、コロナ禍における感染拡大防止を図るとともに、多くの方々にご参加いただくことを目的として、オンライン開催の様子を You Tube Live でライブ配信いたします。

### 【2021 年度北海道 e-水プロジェクト キックオフミーティング 概要】

日時	2021 年 4 月 20 日（火） 14:00～16:10
開催方法	オンライン開催（You Tube Live での視聴）
アクセス方法	北海道 e-水プロジェクトホームページの開催案内に記載されている URL からアクセスしてください。 <北海道 e-水プロジェクトのホームページ> <a href="http://www.heco-spc.or.jp/emizu/contents/contents03.html">http://www.heco-spc.or.jp/emizu/contents/contents03.html</a>
内容	2021 年度採択団体が活動内容を発表：e-水コース（上限 200 万円）8 団体 ※しずくコース（上限 10 万円）13 団体については、事務局がまとめて報告する予定です。 ※各団体の詳細については別紙をご参照ください。
主催	北海道、公益財団法人北海道環境財団、北海道コカ・コーラボトリング株式会社

■ 2021年度 支援団体（敬称略、順不同）

- 対象となる事業：道内の水辺（川、海、湖沼など）において環境保全活動を行う非営利の団体（または流域ネットワーク）が行う事業。

<例> 水辺のプラスチックごみ等に関する啓蒙活動や清掃活動、水辺の多様性保全・希少種保護、水環境保全につながる植樹、学習・体験会、水質浄化など

- 対象となる期間：2021年4月1日～2021年11月30日に実施される事業

<e-水コース（上限200万円）>

	団体名/事業名	主な活動地域	事業概要
1	小松前川支流環境保全ネットワーク いにしえの水辺を守る	小松前川流域 (松前町)	小松前川の本流は、日本海に注ぎ主産業の漁業を支える源となっている。また、支流は松前公園を縦断し、松前城の内堀に流れ込む貴重な源流となっている。この流域ではかつて稲作が行われ、ホタルが息を吐く自然豊かな環境にあった。しかし、時代の変遷とともに農地が荒廃しホタルも姿を見せなくなった。当該活動は、十数年前にホタルの棲む自然を取り戻そうと流域の清掃活動を発端に、環境美化活動を小規模に進めてきた。近年ホタルの数は少しずつ増えてきたことから、活動の輪を広げ、環境教育や総合学習の中で、地域固有のさくら風景とホタルが棲みつく環境保全、主産業を支える魚付きの森、観光資源としての活用に資する。
2	深川ひきがえるバスターズ 外来生物アズマヒキガエルの駆除事業	深川市	1.アズマヒキガエルを地域から排除する活動 ①繁殖する池で成体（カエル）・卵・幼生（オタマジャクシ）を徹底的に捕獲・除去。 ②繁殖池の近くの放置された古い池を重機で取り壊す。 ③池の周囲の除草・枝払い等の環境整備。 2.情報発信・普及啓発 ①会報、②会報特別版、③ホームページ、④マスク取材や依頼講師などを通して、アズマヒキガエル等の外来動物に関する情報や駆除活動の成果を地域内外に広く発信。
3	栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会 火薬庫の沢 子どもいきもの調査隊 ～見て・感じて・調べて・かわる～	夕張川流域 (栗山町)	ハサンベツ里山において、子どもが自由に活動できるフィールド、生きもの豊かな川で学習し、遊べる環境を整えることで、五感を使った原体験やいっしょに川づくりへの意識の醸成、親子をはじめ地域住民を含め幅広い年代の交流及び川や水の大切さを知ることきっかけとし、郷土に愛着と誇りを持つ青少年の育成に貢献する。 ①ハサンベツ里山・火薬庫の沢まで約1.5kmに及ぶ沢地の水路の状況確認と動植物の生息・生育調査 ②二ホンザリガニの生息域保全活動 ③減少の一途をたどる道央部のヘイケボタル生息地を守り拡大し、北海道一のヘイケボタルの里を目指す 上記に係る調査・保全作業・取り組みのまとめ・持続可能な事業展開を目指し活動を実施していく。
4	特定非営利活動法人 しりべつリバーネット 尻別川でのカワヤツメ資源復活を目指して —カワヤツメの復活と治水安全度高める 自然豊かな尻別川の川づくり！—	尻別川 下流域 (二セコ町、 蘭越町)	自然豊かな尻別川、清流日本一を誇る尻別川を将来ともに維持させるために川の楽校や河川清掃、植樹等などの活動を行っているが、尻別川での地域産業としていたカワヤツメの内水面漁業が閉鎖に追い込まれている。ヤツメ資源の減少は全国的な課題でもあるが、河川の問題のほか、海域の問題変化の多い課題を残しており、研究も不足している。このような状況の中で、尻別川においてカワヤツメの回復・復活を目指しカワヤツメの生態行動調査及び河川環境調査を行い、将来、カワヤツメを対象とした内水面漁業組合の復活を目指し、地域産業の発展に貢献させるとともに、治水・防災機能を備えた自然再生事業の提案を行っていくものである。
5	釧路自然保護協会 釧路湿原自然再生事業～目標実現のための“保全”と“再生”の取り組み～	釧路川流域 (釧路市)	(1)自然再生事業実施計画（自然再生推進法、2020年10月策定）に基づき、釧路川支川においてイトウ、サケ・マス等魚類の遡上障害（落差工）に魚道を整備する。これにより、イトウやサケ・マスなどの自然産卵個体群の増加および希少鳥類などの個体群復元を目指す。 (2)イトウ産卵河川上流における、河畔林や森林伐採による河川への土砂流入等、現在ある重要な生態系環境機能を劣化させる行為が依然として頻発している。これらの課題について対応するため、釧路湿原自然再生協議会で2021年3月に新設予定の“重要な生態系保全のためのワーキンググループ（仮）”の取り組みを通じて、釧路湿原自然再生事業の目標達成を目指す。
6	石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク 浜厚真バイオブリック2021 ～キセキの海岸でホンキの生き物調査～	厚真町	大規模な風力発電施設が計画されている浜厚真の沿岸域において市民参加型の生物相一斉調査（バイオブリック）を行い、生物のインベントリと分布図を作成する。本活動は開発計画に直接的に反対するものではないが、活動を通じて貴重な沿岸湿地の価値と魅力について多くの人に体験、理解してもらい、開発の是非ややり方を考えるためのきっかけと判断材料にしてもらいたいと考えている。活動の成果物はモニタリングの検討や開発前後のアセスメントの資料としても利用してもらい、エネルギー開発と生物多様性保全を両立する方法を検討するために活用する。
7	大沼ラムサール協議会 あそViva!まなViva!プロジェクト	大沼 (七飯町)	・研究者による専門分野を活かした環境教育イベントの開催 知の協働 大沼に所属している研究者が、自身の専門分野の活動を参加者に体験してもらい、この活動から何がわかるのか、どうして調べるのかなどを参加者へ説明する。参加者は、研究の一端に触れることで大沼をまた違う視点からとらえることができ、さらに今まで何となくであった大沼で起こる事象を論理的に理解できるようになる。対象は、大沼岳陽学校の児童・生徒とその関係者（保護者・祖父母など対象となる児童・生徒の面倒を見ることができる者、大沼岳陽学校教員、大沼岳陽学校PTAなど）。
8	クッチャロ湖等保全対策協議会 日本最北のお米作りチャレンジ!! 水田ビオトープと湿地の恵みの創出	クッチャロ湖畔 (浜頓別町)	日本のお米作りの北限は遠別町であり、水田というビオトープは現在、浜頓別町に存在しない。しかし、一部地域では過去の土地利用に「田」という記録があることが分かっている。本活動ではハウスを用いて人工的な水田を創出し、過去に存在していた湿地ビオトープを形成、「はくちようもち」の栽培を行う。栽培に関する管理は浜頓別町の子どもたちと一緒に。はくちようちは育苗から行い、田植え・稲の開花・稲刈り・脱穀・精米を通して水田が湿地であり、お米が湿地の恵みであることを学んでもらう。最終的には餅つきをして食す。また、うるち米を栽培している水田を訪問して、農家の方や地元の子どもたちとの交流会も開催したい。

<しずくコース（上限 10 万円）>

	団体名／事業名	主な活動地域	事業概要
1	一般社団法人小樽セーリングクラブ 海から行く、小樽市赤岩海岸クリーン活動	赤岩 海岸線 (小樽市)	海からしか行けない小樽市赤岩の海岸にヨットとSUP(スタンドアップパドル)で上陸してごみ拾いとビーチコーミングをします。祝津から赤岩までの海岸は、多くの漂着ごみが散乱していて漂着ごみが年々増えています。この海岸は崖が続く、陸上から行くのは難しく、海から行かないと海岸をきれいにはできません。海で活動するヨットやSUPの特性を活かした水環境の保全活動です。またビーチコーミングで漂着物を観察したり、漂着物の学習会を開催し海の豊かさを学びます。
2	公益財団法人日本野鳥の会 ウトナイ湖サングチュアリ ウトナイ湖サングチュアリ開設40周年記念 イベント 美々川すいすいツアー	美々川、 ウトナイ湖周辺 (苫小牧市)	美々川とウトナイ湖の魅力や、保全上の問題を伝えるため、日本野鳥の会のレンジャーと、ネイチャーセンターのボランティアが案内するツアーです。まず、ウトナイ湖に流れ込む美々川の源流部を歩き、自然環境（植生や水質等）や生物（野鳥、植物、魚類等）を観察します。その後、レンジャーの自然解説付きで、地元のツアーガイドによる美々川カヌー下りを体験いただきます。最後に、ウトナイ湖サングチュアリに戻り、ウトナイ湖の自然やラムサール条約湿地について解説します。一連の体験を通して美々川やウトナイ湖の自然環境の重要性、水の大切さ、そして当会が目標に掲げる「勇払原野をラムサール条約湿地に」の活動についてもお伝えします。
3	白老町環境町民会議 ヨコスト湿原自然環境調査	ヨコスト湿原 (白老町)	環境省認定の「重要な湿地」である、ヨコスト湿原に生息する植物や鳥類等の資料を収集・整理する。平成22年度に地元有識者が中心となり、自然環境調査を実施しているため、その調査結果と比較検討ができるよう取り進める。助成金の使途は、主に調査員の交通費に充てる。
4	地域協働まちづくり会議 高栄小校区さすな 高栄南公園ビオトープ環境整備	高栄南公園 (北見市)	昨年活動した結果をメンバーで考察し、北海道立総合研究機構 研究主幹三上氏に質問という形式で回答を頂き、その回答を参考に昨年よりも科学的な調査を行い、40年前に団地造成時にビオトープとして保全された、公園内の池をビオトープとしての価値の低下と景観の悪化により、身近な親水体験ができなくなっている現状を改善する為、本年度は藻・泥の機械的除去、池の底の地形調査と整生、破損した木柵などの撤去と岸辺の整備を行い、地域の子供たちや住民が水辺に親しみ、環境学習の実施ができる場にするための活動を実施する。
5	特定非営利活動法人 ビオトープ・イタンキ in 室蘭 「獲物のあるビオトープ」での自然体験	イタンキ浜 (室蘭市)	ビオトープ・イタンキは「獲物のあるビオトープ」です。シオカラトンボの翅のプルプル、網の中ではねトモ、小さな狩りの体験に子ども達は夢中になります。2007年体験学習が可能となった直後から小学生を中心に「授業としての自然体験」を受け入れてきました。教室での事前学習の1週間ほど後に子ども達が網を持ってビオトープを訪れます。安全についての少しの注意の後、子ども達は水に入り網を振ります。草で蝶やバッタを追う子もいます。当日の獲物について解説を受け、飼育を希望する者は持ち帰ることもできます。こうした喜びの体験を通して生きものが好きになり地球環境の問題に関心を持つ大人に育ってくれることを願っています。
6	Friends of Shari River 斜里川を考える会 斜里川のイトウ見守りプロジェクト	斜里川流域 (斜里町)	これまでの当会の調査により、斜里川水系には現在でも僅かにイトウが生息していることが明らかになっています。確認されている産卵河川は1本のみで、産卵範囲は非常に狭いうえに、釣りの人気区域であること、泥水の流入が多いこと、カワウの飛来が増えているなど不安定な環境にあることが解っています。このことから、産卵や稚魚の生息状況調査、産卵期の見守りを行うとともに、カワウ飛来調査を実施します。さらに、道内他地域のイトウ保護団体との連携、教育機関等と連携した子供向けの啓発活動、釣人への呼びかけを実施すること等に関心を高めて、保護に向けた機運を高めます。
7	旭山自然調査隊 水辺の命 みんなの守るもの	札幌市	水辺の生き物と森について学び考えることで森と水・生き物のつながりを知り、集水域の環境を守る活動です。
8	コトモリらす 水辺から再発見！「水辺de幼稚園」	旭川市	幼児や小学生が地域の川で遊び、地域の自然や生き物について知る機会を増やす事を目的として、幼稚園を対象とした水辺のプログラムを作り、幼稚園の活動で実践すると共に、水辺の遊びワークショップを開催し、水辺の活動に興味を持つ親サポーターの育成をはかる。 ◎幼稚園水辺活動プログラム実施 4回 ◎水辺ワークショップ 2回 1回目：現地調査及びプログラムづくり（スタッフ等対象） 2回目：水辺で遊びたい親と先生のためのワークショップ（一般及び先生対象）
9	特定非営利活動法人 オホーツク自然・文化ネットワーク オホーツク海沿岸地域を特徴づける 希少な草本類と昆虫類の広域調査	オホーツク海 沿岸地域 (斜里町)	昨年のシブツナイ湖沿岸地域の調査により、オホーツク海沿岸の一部の地域にしか分布しないとされるトモシリソウが、広範囲で分布する可能性があることが示された。トモシリソウは環境省RDBでは「絶滅危惧Ⅱ類」、北海道RDBでは「絶滅危急種」とされている。また、オホーツク海沿岸でしか確認されていないカラフトキリギリスにおいても、その分布が確かめられていない。そこで、本調査では、トモシリソウやカラフトキリギリスを指標として希少な草本類と昆虫類の分布状況を、オホーツク海沿岸の広域において調査を行い、環境省および北海道のレッドリストに資するデータを得ることを目的とする。そして、今後の環境保全活動および賢明な利用のための基本データとする。
10	特定非営利活動法人 北海道エコビレッジ推進プロジェクト 環境共生型污水处理システムの モニタリングと普及啓発	余市町	2019年度に作成した污水处理システムの継続的な性能評価と普及啓発のため、下記の取り組みを実施する。 ①污水处理システムの維持・拡張のためのメンテナンスと調査 ②污水处理システムの研究結果の公開発表とワークショップの実施 ①については、2019年に作成したシステムの一部を分解し、汚泥の付着状態などの調査やサンプリングを実施する。②については、污水处理の専門家を招聘し、2020年に実施した継続調査の研究結果の一般公開と、汚水浄化に関するワークショップを実施する。

※「しずくコース」つづき

	団体名/事業名	主な活動地域	事業概要
11	<b>渚滑川水系資源教育推進実行委員会</b> 滝上ウキウキリバー探検隊	渚滑川水系流域 (滝上町)	渚滑川の水質の良さ、周辺の自然環境の質は、国内・道内でも屈指のレベルであり、後世に残すべき資源として保全と活用が求められている。こうした保全すべき資源の認知と次世代に繋げるためのアクションとして、子どもたちに対する環境教育、渚滑川への関心を高める読書活動、流域資源の特色を生かした教育を実践できる人材育成を展開する。また、滝上町の地域性を活かす取組みとして、各種団体と連携を図り保全を進める一方で、渚滑川の水質の高さだけでなく、渚滑川水系以外の資源との関連性と重要性を認識し、その魅力を地域内外に発信することで地域の振興策に寄与する。
12	<b>十勝川中流部市民協働会議</b> 自動撮影カメラによる人工湿地に飛来する水鳥類モニタリング	十勝川中流部 (帯広市)	十勝川中流部にある人工湿地（再樹林化防止を目的として掘削された）の維持管理を通じて、2020年からSDGsへの取り組み活動を行っている。この中で、SDGsへの取り組み目標のひとつである「陸の豊かさ」について、2020年度は「減少し続ける生物種を環境の多様化による増加あるいは維持する」ことを目標に生物モニタリングを実施した結果、205種から7種類（鳥類1種類、昆虫類6種類）の増加を確認した。今後もモニタリングを継続する予定だが、水鳥類の確認種が少ないことから、2021年度は自動撮影カメラを設置してモニタリングを行うことにより、この湿地に飛来する水鳥類を把握することで今後の維持管理、そして保全方法に関する情報を得る。
13	<b>手稲さと川探検隊</b> 札幌手稲の水中生態調査 ～手稲の川をのぞいてみると～	星置川ほか (札幌市)	これまで水棲生物の観察は、たも網などで捕獲して水槽で行っている。しかし水槽での観察では、川の中で暮らしている時のような本来の姿を見ることができない。生物本来の姿から自然を身近に感じ、水棲生物に対する興味をより深めるため、川の中での実際の生態を水中カメラで捉えて観察する。また撮影した映像を配信することで、より多くの人、そして川に行けない環境にある障害を抱えている人、更にはコロナ禍でイベント開催が困難な状況でも、上記の目的をある程度果たすことができる。



(昨年度の採択団体活動風景)

当社は、「北の大地とともに」をスローガンに、道産子企業として、北海道の魅力をさらに高める活動、地域課題解決への協力、次世代を担う子どもたちに将来の地球の姿を考える場の提供、安全で安心な地域づくりを応援する取り組みなど、事業活動を通して継続的に推進してまいります。

＜本件に関するお問い合わせ先＞

北海道コカ・コーラボトリング株式会社 広報・サステナビリティ推進部

担当：千葉 TEL 011-888-2091

## ■ 参考 1 活動の源である「い・ろ・は・す 天然水 555mlPET」について

- ▶ 北海道で販売される「い・ろ・は・す 天然水 555mlPET」は当社札幌工場の地下、深さ約 300 メートルの井戸からくみ上げた札幌市清田区南西方向にある白旗山方面から長い年月をかけて深い地下をゆったり流れてきた天然水で、厳しい品質管理を経て皆様にお届けしております。
- ▶ リサイクルペット素材を 100%用いた“100%リサイクルペットボトル”を使うことで、「ペットボトルを資源として循環利用する“ボトル to ボトル”<sup>※1</sup>」、「石油から新規に製造されるプラスチックの使用を削減<sup>※2</sup>」、「ペットボトル 1 本あたりの CO<sub>2</sub>排出量を 49%削減」の 3 つを実現し、環境に配慮された製品として販売しております。

※1 使用済み PET ボトルを回収・リサイクル処理したうえで、PET ボトルとして再生し、飲料の容器として用いること

※2 「い・ろ・は・す 天然水」の従来品 555ml との比較

## ■ 参考 2 北海道e-水プロジェクト とは？

- ▶ 北海道には豊かな水資源とそれを取り巻く美しい自然があります。この北海道の恵まれた水とそれを含む自然環境を道民全体で保全し、未来に引き継いでいくため、道民、事業者、行政の協働のもとで地域における水辺の環境保全活動に取り組む事業が「北海道 e-水プロジェクト」です。
- ▶ エコロジーをイメージする「e」と「きれいな水」というイメージを重ね合わせ、「北海道 e-水（イームズ）プロジェクト」と名付けました。
- ▶ 2010 年から始まった同プロジェクトは、これまでの 11 年間で延べ 117 団体を支援、寄付金額も 133,694,583 円となり、活動の輪は全道一円に広がっています。

## ■ 参考 3 累計寄付金額

2008～2019 年 寄付額実績 **124,953,715 円**

2020 年 寄付額 **8,740,868 円**

---

**寄付額累計 133,694,583 円** 内) 北海道 e-水プロジェクト 109,316,388 円

## ■ 参考 4 「令和元年度 未来へつなぐ！北国のいきもの守りたい賞」受賞（2020 年 1 月）

- ▶ 「北国のいきもの守りたい賞」とは  
北海道が 2017 年度に創設した制度で、北海道における生物多様性の保全及び持続可能な利用を推進するために、道内で生物多様性の保全等に関して、優れた活動・模範的な活動を行う企業、団体、個人を表彰するもので、「北海道 e-水プロジェクト」と「白旗山での森づくり」の 2 つの当社活動が表彰されました。
- ▶ 当社活動の評価ポイント  
『水を使った製品を製造する会社として、流域や森林、豊かな自然環境から高品質な水が得られるという確固たる 想いを自社商品にこめて、生態系の保全などに取り組む団体をサポートする「北海道 e-水プロジェクト」の仕組みを 評価しました。また、製品の水源である白旗山を活用した環境教育では、関係機関との連携もみられるほか、たくさんの方が参加されています。10 年目を迎えた「北海道 e-水プロジェクト」をはじめ、今後も「水」をテーマとした生態系保全の取組への支援が進化し続けることを期待します。』

(※北海道 HP より引用)



(授賞式の様子)



(企業部門 賞状)

■ 参考5 「北海道e-水（イームズ）プロジェクト」歴代支援団体の活動エリア



2021 年度支援団体は団体名を記載：赤字はe-水コース（上限 200 万円）、青字はしずくコース（上限 10 万円）